

田口和正氏文書 (1) 概要

- 1: 文書群番号 114023-1
- 2: 文書群名 田口和正氏文書 (1)
- 3: 出所 田口和正家
- 4: 家業・役職等 庄屋
- 5: 地名 摂津国武庫郡常吉村／兵庫県武庫郡常吉村／武庫郡武庫村常吉／尼崎市常吉／尼崎市常吉1丁目ほか
- 6: 行政区分 幕府領／尼崎藩領／兵庫県第8区／常吉組戸長役場／武庫村／尼崎市
- 7: 歴史 常吉村は、市域北西部、武庫川沿いに位置する。史料上の初見は文亀元年(1501)「檜葉近江守貞連申状」(賦草案之引付所収／室町幕府引付史料集成)で常吉名とある。北に隣接する常松と同じく名田の開発領主名に由来する地名と考えられる。
村高は慶長10年(1605)に94石余、元禄15年(1702)に176石余、天保5年(1834)に215石余であった。近世を通じて尼崎藩と旗本佐藤氏の相給であり、佐藤氏知行所は14石余であった。南隣の西武庫村とその南に連続する守部村は全村が旗本佐藤氏知行所で西武庫村に陣屋が所在した。
水利は、武庫井組に属した。氏神は須佐男神社(近世には牛頭天王社)、寺院は浄土真宗大谷派常願寺。
昭和40年(1965)～平成元年(1989)の住居表示により常吉・武庫豊町となったほか、一部が武庫元町・武庫之荘・常松・武庫の里となった。
- 8: 伝来 平成26年7月、田口和正氏より借用。平成27年3月、同氏より寄贈を受けた。
- 9: 史料入手先
- 10: 点数 474点 (目録件数461件)
- 11: 年代 寛永20年(1643)～大正3年(1914)
- 12: 構造と内容 本文書群は常吉村に関する近世～明治期にかけての文書と田口家の私文書からなっている。(1) 免定など貢租関係、(2) 田地や金銭の金融関係、(3) 武庫川普請・水論関係、(4) 奉公人請け状など家関係などからなっている。
水論関係の文書には正徳2年(1712)の水害直後からのものがあり、その後、享保年間まで水論が続いていたことがわかる。正徳2年の水害については『尼崎市史』にも記載があるが、享保期の水論についてはこれまでまとまった史料がなかった。
また、全体の傾向として享保期の文書が多く、次いで文政～安政期が多くなっている。享保期は水利水論関係が多く、文政～安政期は金融関係が多い。近代は私信がほとんどである。
庄屋をつとめていたことから、免定・宗門改などがまとまって残っている。
- 13: 関連史料 常吉部落有文書 (1) (2)、常吉村文書
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 城戸八千代

※本文書目録を作成するにあたり、史料館のボランティアの方々にご協力いただきました。(作業期間: 平成26年8月～平成27年6月)。